



Sagrada Familia - 聖家族 -

サグラダ ファミリア

2025年12月7日号
発行：カトリック水戸教会 広報部

【典礼部だより】12月の典礼暦から～「忍耐」と「希望」～

今、聖堂の前方、祭壇のそばには待降節の4本のろうそく（アドベント クランツ Advents kranz）が供えられています。待降節第1主日に最初のろうそくが灯され、この号が発行される12月7日・待降節第2主日には2本目のろうそくが灯されるはず。4本のろうそくは、1本目が「予言のろうそく」、2本目が「天使のろうそく」、3本目が「羊飼いのろうそく」、4本目が「ベツレヘムのろうそく」と呼ばれ、それぞれが「希望」「平和」「喜び」「愛」を意味します。

さて、来週の12月14日・待降節第3主日、「喜び」を意味する「羊飼いのろうそく」が灯される日、ミサの第2朗読では「使徒ヤコブの手紙」の5章7～10節が読まれます。このA年で「使徒ヤコブの手紙」が読まれるのは主日ミサではこの日だけ、週日ミサでも灰の水曜日の直前、2026年2月16日（1章1～11節）と17日（同12～18節）の2日だけです。

十二使徒の中に「ヤコブ」が2人いるのでややこしいのですが、「使徒ヤコブの手紙」を書いたのは、ペトロとアンデレ兄弟の次にイエス様に従ったゼベダイの子ヤコブではなく、アルファイの子ヤコブ（マタイ10・3、マルコ3・18、ルカ6・15）の方です。

彼は系図上イエス様の親類（おそらくは従兄弟）であり、エルサレム教会の初代司教と

なっていてたくさんの人々を信仰に導きました。そのためファリサイ派の反感をかい、62年にエルサレムの城壁から落とされて殉教。最後まで自分を殺す者たちのために祈っていたといえます。同時代のユダヤ人著述家ヨセフスも「義人ヤコブ」として記録していますから、ユダヤ人からも尊敬されていたのでしょう。

この第2朗読では「忍耐」が強調されますが、筆者は『農夫は、秋の雨と春の雨が降るまで忍耐しながら、大地の尊い実りを待つのです』という部分を読んだとき、2025年の通常聖年公布の大勅書『希望は^{あざむ}欺かない』の中の『被造界をなおも驚きの目をもって眺めることができるなら、忍耐がどれほど決定的なものであるかを理解することができるでしょう。季節の移り変わりをその実りとともに待つこと……』という一節を思い浮かべました。同勅書では『希望と密接に結びついた徳、すなわち忍耐』という言い方もされています。

待降節は「忍耐」してキリストを待つ季節です。そして「忍耐」して待つことによって、わたしたちは目の前の主の降誕（クリスマス）だけではなく、もっと向こう、例えば2025年の通常聖年のテーマである「希望」ということにもつながっていくのだと思います。

【12月21日・待降節第4主日のミサ 奉納の歌『久しく待ちにし』】




歌い慣れない聖歌ですがとても美しいので、練習しておきたい方のために譜面を掲載します。12世紀のラテン語聖歌の翻訳ですね。どんな曲か聴きたい方は、上のQRコードをスマホにかざせばカトリック六甲教会音楽チームの歌声を聞くことができます。聖歌はみんなで歌ってなんぼ、ぜひ歌唱にご協力を。

【水戸教会 年末年始の主な予定】

- 12月13日 カトリック北浦和教会からの巡礼団。10時ころからミサが捧げられます。
- 12月14日 待降節第3主日のミサ後、黙想会（指導司祭：淳心会司祭・オリエンズ宗教研究所所長のカブンディ・オノレ神父様）。
- 12月21日 待降節第4主日。わたしたちの主任司祭ルスニ神父様のお誕生日でもあります。
- 12月24日19:00～ 主の降誕 夜半のミサ。
- 12月25日10:00～ 主の降誕 日中のミサ。

- 12月28日 聖家族の祝日。水戸教会の聖堂は聖家族に献堂されています。同日15:00～浦和のカテドラルでは聖年閉幕のミサが捧げられます（バチカンのサンピエトロ大聖堂の聖なる扉が閉ざされるのは2026年1月6日〔主の公現〕）。
- 12月31日19:00～ 大晦日の国際ミサ。
- 2026年1月1日 神の母聖マリアの祭日。例年と異なりミサは11:00～です。ミサの前、10:30～ロザリオの祈り（栄えの神秘）を捧げます。